

アメリカ合衆国大統領
バラク・フセイン・オバマ殿

アメリカの未臨界核実験実施に断固抗議し、 「核兵器のない世界」に向けた着実な行動を要請する

貴国政府が、9月15日にネバダ州の核実験場にて未臨界核実験「バックス」を実施したことが明らかとなった。オバマ政権発足以降初めての核実験を実施したことに対し、私たちは憤りをもって強く抗議する。

オバマ大統領は昨年4月、プラハでの演説で、「核兵器を使用した唯一の国としての道義的責任」を認め、「核兵器のない世界」のために行動すると宣言した。このことは世界に向けた核兵器廃絶の新たな契機となり、広島・長崎の被爆者をはじめ多くの人々に希望をもたらした。そして今年8月6日の広島市平和祈念式典には駐日大使が初めて参加したことは、貴国の核兵器廃絶に向けた姿勢の表れとして大いに歓迎された。

また、今年5月におこなわれたNPT再検討会議では、貴国も含め全会一致で合意された最終文書にて、2000年の再検討会議で示された核兵器保有国による廃絶への「明確な約束」が再確認され、加えて加盟国が「核兵器のない世界を達成するという目標に完全に一致する政策をとる」と宣言している。

しかし、今回の貴国の未臨界核実験は、オバマ大統領の言動にも著しく矛盾し、NPT再検討会議の最終合意文書の確認事項からも大きく逸脱している。「核兵器のない世界」実現に向けた世論に背く、覇権主義的行動と言わざるを得ない。また、このことが核兵器廃絶をめざし行動する世界的な市民の失望と怒りを喚起するものであることは論をまたない。

私たちは、貴国が未臨界核実験を含むいっさいの核兵器実験・開発計画を即時中止し、「核兵器廃絶への明確な約束」を果たすべく具体的な進展にむけ着実に行動されるよう、ここに強く要求するものである。

以上

2010年10月14日

日本自治体労働組合総連合
中央執行委員長 野村 幸裕